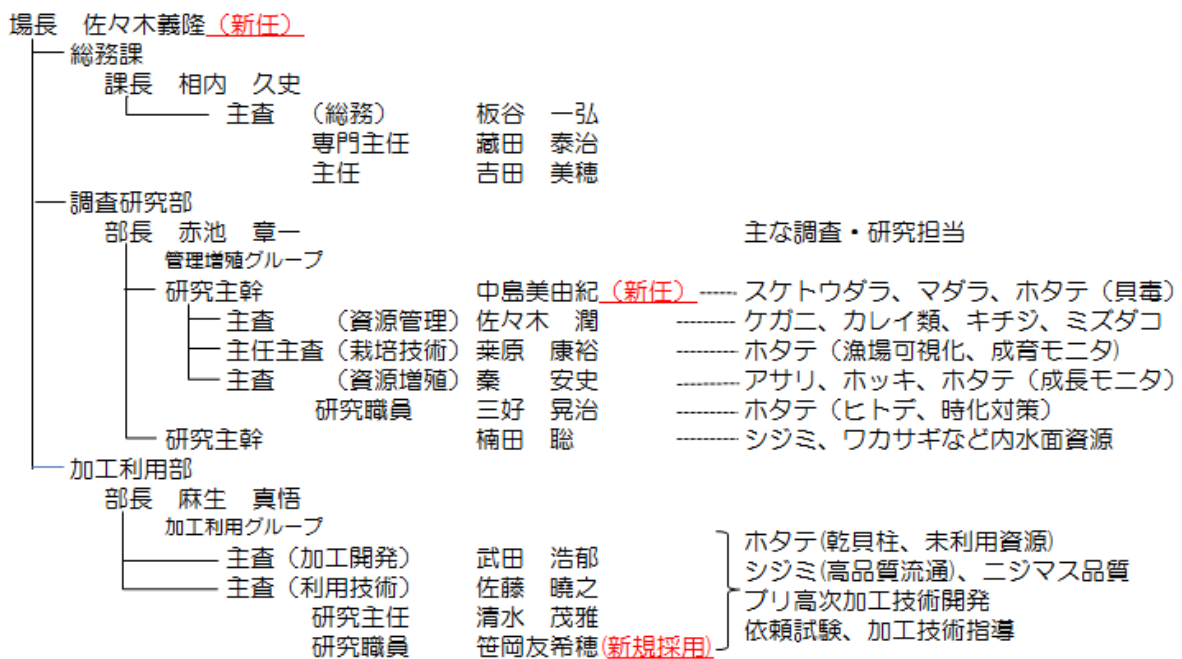


4月から網走水産試験場の場長を務めることとなりました佐々木義隆と申します。よろしくお願い致します。4月も下旬となり、新たな体制となった職場でもそろそろ落ち着いて業務が進んでいることでしょうか。網走水試でも今年度、幹部職員が入れ替わり新体制での調査・研究業務が始まっています。今回はご挨拶がてら平成30年度の網走水試の組織体制と調査・研究課題をご紹介します。

▶平成30年度の網走水試の組織体制と各職員の業務担当は下図のとおりです。前場長の上田は退職となりましたが再任用で水産研究本部企画調整部専門研究員として勤務し、後任に私、佐々木がさけます・内水面水産試験場から着任しています。調査研究部研究主幹の浅見はさけます・内水試の内水面資源部長に転出しています。浅見の後任にはさけます・内水試から中島が、着任しています。また、紋別市にある加工利用部には新規採用で笹岡が着任しています。それぞれ、これまでのキャリアを生かし、地域に役立つ試験研究に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



▶調査研究部では、ケガニやホッケ、カレイ、スケトウダラ資源などのモニタリング課題に加え、今年度から「画像解析技術を利用した地まきホタテガイ漁場底質分布推定技術開発」、「地まきホタテガイ漁業における時化被害の実態解明」、「サロマ湖におけるアサリ天然採苗に関する研究」、「網走海域におけるホッキガイ資源増大技術の開発」など、新たな研究課題に取り組みます。

▶加工利用部では、「ヤマトシジミの高品質流通技術開発」に引き続き取り組むとともに、今年度から「道産ブリの加工利用を促進させる高次加工品製造技術の開発」、「道産内水面養殖ニジマスの刺身商材としての品質・食味特性解明・評価技術開発」、「ホタテ未利用資源等を用いたサケ科魚類増養殖魚の質的向上研究」など、新たな研究課題に取り組みます。